

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名

いやなが保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「まねっこしよう！」 1歳児

<テーマの設定理由>

1歳児は遊びや生活の中で、友達の動きのまねをして成長していく。周りの人々の言葉や動きへの観察力を高めることをねらいとした。

2. 活動スケジュール

【4月】 テーマ決定、問いの検討、環境デザインの検討

【7月】 探究活動の実践/2回

「まねっこ」につながる絵本やペープサート等を見る。手遊び歌を歌う。身の回りの自然（虫、植物）を見る、触る。動きをまねる。

【8月】 探究活動の実践/1回

2歳児が楽しむ絵本や手遊びを、そばで見て、同じように楽しむ、手遊びをまねる、言葉遊びをまねる。

【9月】 探究活動の実践/1回

グループの友達の、手遊びをまねる、言葉遊びをまねる、動きをまねる。

【10月】 まとめ

【11月】 職員・保護者・地域の方に報告

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【視覚的教材】

絵本：「ぴょーん」ポプラ社／「パンダなりきり体操」講談社／「じゃじゃあびりびり」偕成社／

「たべものだあれ」講談社／「くっついた」こぐま社

手作り教材：「パンダウサギコアラ」（ペープサート）「りんごころころ」（絵カード）

【場の設定】

①視覚的教材を落ち着いて見るために椅子を配置した。

②友達同士の動きが見え、自由に動ける広さを確保した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

当園の子どもたちは、絵本などの視覚教材をきっかけに、身体で自由に表現することを楽しんでいる。「まねっこしよう！」の活動では、1歳児向けの絵本を読み聞かせてから、「まねっこできるかな？」と声をかけると、保育者や友達と一緒に、言葉や動きを「まねっこしたい」という気持ちが表れるようになった。さらに、自然の虫や植物に触れ観察する体験や、一つ上の学年である2歳児の動きを見ることで刺激を受け、自分なりの動きを表現するようになってきた。子どもたちは「まねっこ」を通して、身近なものに関心を持ち、保育者や友達と一緒に表現する楽しさを味わった。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【活動の内容】

- ・絵本「バツタ」「ぴょーん」を読み、バツタの跳ねる動きを楽しんだ。
- ・2歳児向けの言葉や動きを知らせるため、ペープサート「パンダウサギコアラ」や絵カード「りんごころころ」、短めの絵本「じゃあじゃあびりびり」「たべものだあれ」「くっついた」を読み聞かせた。
- ・生きている大きなバツタを捕まえて透明ケースに入れ、実際の動きを観察した。
- ・さらに、動きをイメージしやすい絵本「パンダなりきり体操」を読み聞かせ、保育者と一緒に体を動かした。

【子どもの姿】

- ・1歳児は絵本では集中できず、まねた言葉やまねた動きは少なく、「まねっこしたくなる環境づくり」が課題となった。
- ・透明ケースの中で元気に跳ねる大きなバツタを見て驚き、「キャー！」と歓声を上げながら、ぴょんぴょん跳ねる子どもの姿が見られた。保育者と手をつないで跳ぶことを嬉しそうに何度も繰り返していた。
- ・2歳児が友達とくっつき合ったり、「じゃあじゃあ」とオノマトベを楽しんだりする様子を見て、1歳児がまねしながら一緒に笑い合う姿が見られた。
- ・ペープサートを見ることで、身ぶり手ぶりで動物を表現した。「上手だね」と声を掛けることで安心した表情になり、他児からもまねられる様子が見られた。
- ・絵本を繰り返し読むことで、知っている物には指差しや「んー！」と言葉にして表現するようになった。
- ・「パンダなりきり体操」では、手足をあげさげしながら、繰り返し表現することを楽しんでいた。

【保育者とのかかわり】

- ・保育者が「まねっこできるかな？」と声をかけ、一緒に体を動かすことで、子どもたちは安心して活動に参加できた。
- ・子どもの表現を言葉で「バツタみたいに跳ねているね」「上手にくっつけたね」と伝えることで、子どもたちは表現する楽しさを深めていった。
- ・上の学年（2歳児）の姿を見せ、「お兄さんたち楽しそうだね」と伝えることで、1歳児グループの「まねっこしてみよう」とする意欲を引き出した。



「ぴょーん」を見る



まねっこする



絵カード・ペープサート

5. 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

- ・1歳児グループが「まねっこ」したくなるような素材として、まず絵本を選定した。
- ・しかし、まだ言葉を発することの難しさやグループ内に月齢差があることから、それぞれの子どもが自分なりの動きを楽しみ、探究活動へつなげる環境構成に工夫を重ねた。
- ・最終的に、保育者が子どもの様子を見ながら動きを促せる、ペープサート・絵カード・普段から慣れ親しんでいる身近な短編絵本の3種が、子どもがまねっこしやすいことがわかった。また、そばに虫を飼ったり、りんごが転がる様子を観察したりする体験も、まねっこの良いきっかけになった。
- ・さらに、年上2歳児の表現から刺激を受けることで、「やってみたい」という心の動きが1歳児にも広がっているのを感じた。面白い動きには「思わず体が動いてしまう」「楽しいからもっと虫の動きをよく見たい」という反応が見られた。
- ・このように、子どもが環境と出会い、関わり、安心して動きを楽しむためには、身近にその環境があること、そして人（保育者・1歳児・2歳児）とのつながりが大切であることを改めて感じた。